

知的好奇心を満たすための読書

—— 「外書講読」授業目標②より ——

Reading for Fulfilling Intellectual Curiosity

中西のりこ¹⁾ 久米 希美²⁾

Noriko NAKANISHI, Nozomi KUME

(要約)

「外書講読」では「たくさんの書物を読むことに慣れること」を第二の目標とした。本稿では「知的好奇心を満たすための読書」「娯楽としての読書」という意識づけを行うために実施した「ブックトーク」と「書誌データ入力」活動の様子を紹介する。次に、モーリス・センダック作品に注目した受講生が作品中に象徴的に表れる月の形と向きが暗示する意味について考察する。この受講生の読書に対する姿勢は、読みたい作品を読みたいから読むという読書の基本を示している。芸術作品を楽しむ、興味をもった事柄について作品を横断的に分析するという姿勢が養われたことは「外書講読」授業での収穫の1つとなった。

キーワード：読書の目的、絵本の芸術的要素、モーリス・センダック、月の満ち欠け、登場人物の感情

¹⁾ 神戸学院大学経営学部准教授

²⁾ 神戸学院大学経営学部2年次生

1 はじめに

本稿責任筆者担当の「外書講読」では、1) 図書館の使い方に慣れること、2) たくさんの書物を読むことに慣れること、3) 文献の整理ができるようになることを目標に、本学有瀬図書館に所蔵されている児童向け洋書を利用した活動を行っている(注1)。本稿では上記のうち特に2) たくさんの書物を読むことに慣れること、という目標を意識した授業活動に焦点を当てる。「外書講読」においてこの目標を設定したことの背景には、「知的好奇心を満たすための読書」「娯楽としての読書」という読書の基本を受講生に体感させることによって、洋書であれ和書であれ、活字に対する抵抗感を軽減したいというねらいがある。

「たくさんの書物を読む」という活動を促すために、近年英語教育現場では Graded Readers (GR) が多読教材として広く使用されている。本学においても2011年度より「図書館留学」事業の一環として「多読ラリー」を図書館が企画するなど、学生が英語で書かれたものに触れる機会を提供している。この企画では、学生が読んだ多読用図書の数数を記入するリーディング記録手帳が配布され、「ゲームのような感覚で多読に取り組むことができる[1]」とされている。一方でGRは「英語を外国語として学ぶ学習者向けの段階別に書かれた本[2]」であるため、英語学習教材というイメージを伴う。語学を専門分野とする学部のない本学では、英語に対する苦手意識が原因で、上記のようなせっかくの企画にも参加を躊躇する学生が相当数存在すると考えられる。英語学習を得意としない学生にも洋書を手にする動機を与え、多読への橋渡しをすることが必要となる。

そこで「外書講読」では読む語数のノルマを課すのではなく知的好奇心を満たすため、又は娯楽として「読みたいから読む」という意識付けを行うことを目指した。多読の習慣は、その結果として養われることが期待される。そのために、読む対象とする書物の種類、読んだものについて発表をする機会、読みたい作品を検索するしくみという3つの読書環境を整えることを心がけた。第1に、読む対象としては、「外書講読Ⅰ」では本学有瀬図書館所蔵の Caldecott 賞受賞作品(2013年4月現在198冊)、「外書講読Ⅱ」では Newbery 賞受賞作品(2013年9月現在125冊)を使用した。これらの賞はアメリカ児童図書館協会(ALSC)が児童向け作品の作家に毎年授与する賞[3]であり、語学教材というより芸術作品・文学作品としての意味合いを持っている。第2に、「ブックトーク」という発表の機会を設けた。読んだものについて話すということが予め分かっていると、作品に対して知的好奇心を持ち、目的意識を持って読むことができる。また、自分が紹介する作品だけではなく他の発表者が紹介する作品にも興味が湧くというように、受講生同士がサポートしあい「読みたい」という気持ちの連鎖が生まれることも期待できる。そして読書環境を整えることの第3として、読みたいと感じた時に関連する作品の検索が可能になるよう、書誌情報を入力するための共通フォーマットを準備し、受講生が手分けして書誌リストを作成した。

本稿次章では、上記3つの読書環境のうち「ブックトーク」と「書誌リスト」の概要を紹介する。次に第3章では、Caldecott 賞を含む児童文学関連の賞を多く受賞しているモリス・センダックに焦点を当てて研究を進めた久米希美の研究内容を紹介する。なお、第

3章については久米が草稿をまとめたものについて本稿責任筆者が加筆補正を行った。

2 「外書講読 I」の授業概要

本章では、経営学部の2年生が受講した2013年度前期科目「外書講読 I」の授業概要を紹介する。半期授業内で4回のブックトークを行うこと、クラス全体で書誌データベースを作成することという活動を軸に、ブックトーク準備やデータベース作成時に受講生が疑問に感じたことや興味を持ったことについて科目担当者が個別にサポートを行うという方針が進められた。学生からの提出物、担当者からの配布物はすべて本学が提供する「Campus (ドット・キャンパス)」を介してやり取りが行われた。図1は「外書講読 I」の提出課題と配布資料である。第1回授業(0410 handout, 絵本リスト)で配布された授業計画や絵本リストを元に、第3回授業で(130424 本文入力 of 決まり)が配布されるまでに半期の授業概要とデータ入力の決まりを受講生が理解し、第4回授業以降では毎回課されるデータ入力課題を提出しつつ、3回に1度の割合で開催されるブックトーク原稿を書くという流れで15回の授業が実施された。



図1. 「外書講読 I」提出課題と配布資料

2-1 ブックトーク

図2に、久米が前期4回分のブックトークのために準備したパワーポイントスライドの表紙を示す。ブックトークでは単なるあらすじ紹介に終わるのではなく、読んだ内容を独自の視点で掘り下げ、あらすじ以外の付加情報を2分以内で簡潔に発表するよう促した。



図2. 久米希美による「ブックトーク」提示資料表紙

第1回目のブックトークで久米は Patrick McDonnell による *Me...Jane* [4] を取り上げ、この作品の主人公となっている動物行動学者 Jane Goodall の経歴について発表した。次に第2回目にはモーリス・センダックが挿絵を手掛けた *In the Night Kitchen* [5], *A Very Special House* [6], *Chicken Soup with Rice* [7] の共通点について述べた。この時点で久米は、センダックが描く子供の無邪気な表情や無限の想像力に魅力を感じたことに加え、文字としては描写されない神秘的な何かを作品が表現していることを感じたようで、この感覚が後の研究の土台となったと考えられる。このことは、第3回目の発表で *Swamp Angel* [8] を紹介し「あり得ない設定」や「子供の残忍性」について述べたことや、第4回目の発表で Trina Schart Hyman が挿絵を手掛けた *Hershel and the Hanukkah Goblins* [9], *Little Red Riding Hood* [10], *A Child's Calendar* [11] の3作品の共通点として「恐怖感」や「悪魔の迫力」が描写されていることに言及したことにも表れている。なお、第4回目の久米によるこの発表は、第3回目に他の発表者が取り上げた *Little Red Riding Hood* について、久米が異なった視点から掘り下げて調べたものであった。半期授業終盤のこの時期になると、他の受講生の発表の後に、自分は別の視点から同じ作品を捉えたと発言する受講生が少なからず現れた。同じ作品を読んでも人によって焦点を当てる部分が異なるという認識を受講生間でシェアするという体験は、英文和訳や多読活動からは得難い本来の読書の醍醐味である。こういった認識がブックトークを通して芽生えたことは「外書講読Ⅰ」における収穫のひとつとなった。

ブックトークの効果について久米は以下のように述べている：

自分で何か課題を見つけたり発見をしたりということは、見つけようとする努力が無ければできない。ただ読むだけではなく、何故こうなるのか、これはどういう意味なのかということ、どんな小さなことでも課題として積極的に見つけ、どんな方法を使ってでも調べるといふ力は、ブックトークでとても身に付いた。自分なりの答えを見つける楽しみもあり、それを人に発表することで自信がつく。さらに、他人の発表を聞くことで自分の知らない価値観と出会える。このブックトークでは何を調べるかが特定されておらず、自主性が重んじられているため、発表する内容は人によってとても様々である。発音について調べる者もいれば、英文の中で使われる記号について調べる者、表紙に使われている色など、自分ひとりでは考え付かないような着眼点があることに気付いた。英語の本でも、英語に関する発見だけではなく、様々な観点を

持ち調べ発見していく。このようにして、ただ本を読むのではなく何かを発見する目的も持ちながら読んでいく。今までは英文を読むことがしんどいと感じていた私にとって、ブックトークは、英語に触れることを苦にしなくなるきっかけを与えてくれる効果があった。

2-2 書誌データ入力

上記のように「作品を複数関連付けて分析する」という読み方や「作品の一部に着目し深く掘り下げて調べる」という読み方を可能にするためには、各受講生が興味を持った作家やことごとらについて、複数の作品に渡って横断的に書誌を検索し、関連する作品を入手できるしくみを構築しなければならない。そこで、図3に示すように、全受講生が手分けして書誌情報を入力するフォーマットを初回授業時に配布し、対象となった Caldecott 賞受賞作品についてのデータを使用して受講生が興味を持ったことごとらに関連する作品を横断検索できるようにした。

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	回	出版	著	本のタイトル	ページ	本文				赤	濃	明	キーワード	キーワード
				Ball for Dais	0.00					赤	淡	明	犬	ボール
				Child's Caler	3.00	January. The days are shor				茶	淡	明	雪	猫
				Child's Caler	4.00	February. The sun rides hig				赤	濃	明	紙	鳥
				Child's Caler	5.00	March. The sun is nervous				白	淡	明	羊	凧
				Child's Caler	6.00	April. It's spring! Farewell To				黄	濃	明	花	女の人
				Child's Caler	7.00	May. Now children may Go				赤	濃	明	犬	お店
				Child's Caler	8.00	June. The sun is rich And				緑	濃	暗	湖	自転車
				Child's Caler	9.00	July. Bang-bang! Ka-boom!				黄	濃	明	犬	たくさんの
				Child's Caler	10.00	August. The sprinkler twirls				青	淡	明	海	かもめ
				Child's Caler	11.00	September. The breezes ta				茶	濃	明	花	お店
				Child's Caler	12.00	October. The month is amk				黄	濃	暗	ハロウィン	かぼちゃ
				Child's Caler	13.00	November. The stripped an				茶	淡	暗	木	冬
				Child's Caler	14.00	December. First snow! The				緑	濃	暗	雪	ツリー
				Couple of Bi	1.00	One hot summer day, Jame				青	淡	明	座っている	男の子
				Couple of Bi	2.00	Eamon was already there. N				青	淡	明	家族	海
				Couple of Bi	3.00	With just a couple of his be				黄	淡	明	荷物	手を振る男
				Couple of Bi	4.00	The first thing Bill wanted t				青	淡	明	少年	家族
				Couple of Bi	5.00	In the morning, Bill took the				緑	淡	明	車	山
				Couple of Bi	6.00	When they got home, Bill u				青	淡	明	地図	バラソル
				Couple of Bi	7.00	And it made them look at e				青	淡	明	テレビ	男の子
				Couple of Bi	8.00	Bill brought this photo and				黄	淡	暗	倉庫	テープ

図3. 入力済み書誌データ

図3は29人の受講生が入力した122作品（2,606行）の書誌データのE列にフィルター機能をつけ、作品の著者が一覧できるようにしたところである。検索したい著者にチェックマークを入れることにより、特定の著者による作品のみを表示することができる。同様に、たとえばM列やN列を基準に検索すれば、特定のキーワードに関連するページのみが表示される。

受講生は前期レポート執筆時にこの書誌データを使用し、独自の視点から複数の作品を分析した。久米のように特定の著者に着目した分析だけでなく、J-K列を利用して作品が表現する色彩イメージについて分析したレポート（注2）、M-N列を利用して作品中に現われる男女比や動植物が現れる作品の傾向について述べたレポートなど、着眼点は実に多様であった。なお、作品の出版年を入力する列を設けなかったことは担当教員のミスで

ある。出版年についての情報が入力されていれば、上記のような着眼点以外にも、年代ごとの作品の傾向など、通時的な分析も可能であったと考えられる。しかし数回目の授業時に教員がミスに気付いたときにはすでに全ての受講生が入力作業を開始していたため、途中で変更をすることができなかった。初回授業開始前にフォーマットを入念に確認するということを反省点として今後の授業計画に役立てたい。

3 センダック作品における月が示す役割

以下では「外書講読Ⅰ」を受講した久米希美による研究内容を紹介する。

3-1 研究動機

2013年前期の「外書講読Ⅰ」を受講し、Caldecott 賞を受賞した *In the Night Kitchen* を読んだことにより、筆者はモーリス・センダックの作品について大変興味を持った。センダック作品を初めて読んだとき筆者は、彼の描くのびのびとした登場人物たちの表情や行動に目を引かれた。主人公が感情をむき出しにする様が、神秘的な背景と合わさって人間味あふれる世界を作り上げていた。彼の作品の背景には月が多く描かれているということが特徴のひとつである。例えば図4はセンダックが気に入っている一枚の絵であり、そこに三日月が描かれている [12]。

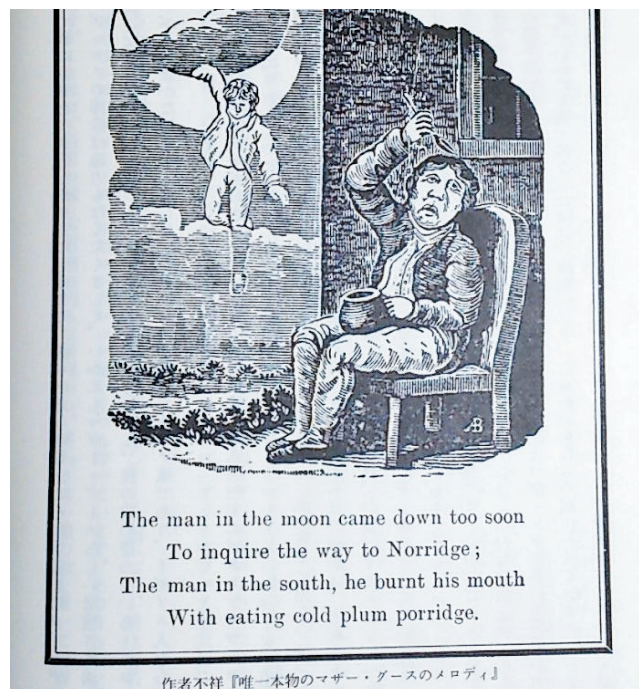


図4. マザーグースの挿絵

また、*Where the Wild Things are* では、同じ日の夜が描かれていると考えられる場面であるにもかかわらず、あるページでは三日月、次のページでは満月が登場するという矛盾が起こっている。このことについて筆者は、まるで月の形が主人公の感情を代弁しているようだと感じた。何もなしに三日月が満月へと変わったのには何か理由があるに違いな

い。レイنز（渡辺訳）[13]は、センダック自身による発言を以下のように紹介している。

わたしは、満月がすきなんです。友人のトミー・ウンゲラーが、わたしの本は矛盾だらけだといいました。満月が、何の理由もなしに4分の3に欠けたり、半月になったりするんですからね。でもわたしの本には、月は、グラフィックな理由であらわれるので、天文学的理由ではないのです——ページにどうしてもあの形が必要なのです。

レイنز（渡辺訳, 1982: 93）より引用

この矛盾についてマルコヴィッツ（水谷訳）は「それまでの三日月ではなく、なぜか満月が輝いているが、こんな魅力的な場面では、画家が普通ではありえない月を描いたからといって、つべこべいう読者はいないだろう [14]」と述べているが、本研究では、モーリス・センダックと月の関連性に焦点を当て、センダックが描く月の形や向きと、主要人物の感情との関係について分析を行う。

3-2 方法

神戸学院大学の図書館や市立図書館などを利用し可能な限りで手に入れた、モーリス・センダックが描いた絵本作品を対象に分析する（注3）。作品中に描かれている月について分析するため、物語文の著者がセンダック自身でない作品であっても、イラストがセンダックによるものであれば分析対象とする。

初めに、対象絵本18冊の総ページ数に対する、月が出てきているページ数の割合を調べる。次に、描かれている月の状態を、満月、上弦の月・下弦の月に分類する。さらに、上弦の月・下弦の月が出てくるページにおいて、月の向きと、主要な物の向きや人物の目線（以下、「主要人物の目線」と呼ぶ）が、同じ向きまたは反対を向いているかを検証する。また、月が出ている絵本の場面を見た時に読者がどこに注目するのかを探るため、大学生と社会人を対象に以下の手順により、口頭で自由回答式の聞き取り調査を行った。① *Outside over There, The Moon Jumpers, Where the Wild Things Are* の3作品から1枚ずつの場面をランダムに提示し、場面中に存在する月を認識してもらう。②月と関連性のある物や人物などあげてもらう。③②の物や人物を選んだ理由を答えてもらう。これを年齢層20代の調査協力者39人に対して行った。協力者の内訳は、男性25人（うち社会人7人・学生18人）、女性14人（うち社会人6人・学生8人）となった。協力者の年齢層が20代に限定されており男女比や社会人・学生の比も同等でないことから数量的データの母集団としてはいびつであるため、聞き取り調査から得られた意見は参考に留め、数量的な処理は行わないこととする。

3-3 結果

モーリス・センダック18作品中の全750ページのうち、102ページ（14%）で月が描かれていた。この102ページのうち、84ページ（82%）に満月、10ページ（10%）に上弦の月、8ページ（8%）に下弦の月が描かれており（図5）、満月が圧倒的割合を占めていることが

明らかとなった。図6は、上弦または下弦の月の向きが、絵本の場面に登場する主要人物の目線の向きと同じか、もしくは反対になっているか、を示している。その結果、「同じ」15ページ(83%)、「反対」1ページ(6%)、「その他」2ページ(11%)となった。つまり、上弦の月・下弦の月は、主要人物の目線と同じ方向を向いて描かれる傾向が強いという結果が得られた。

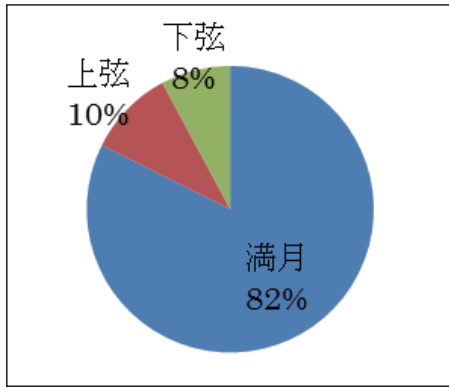


図5. 月の種類別割合

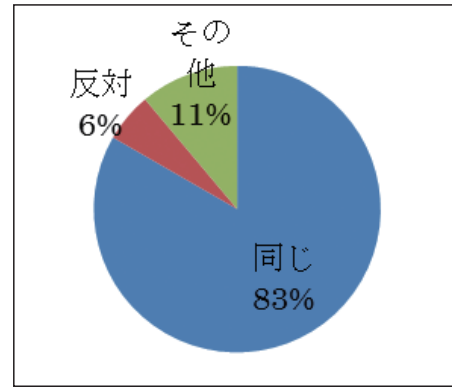


図6. 月と主要人物の目線の向き

次に、月が出ている絵本の場面を見た時に読者がどこに注目するのについての聞き取り調査結果を示す。

図7は、*Outside over There* の一場面である。調査協力者はこの絵に描かれている月と関連性があると考える主要人物について、「右から2番目の赤ちゃんの頭と月の形が似ている」「ラッパの形と月の形が似ている」「卵の殻と月の形が似ている」のような理由を示した。つまり、登場人物と月の関係について説明する際、月の「形」に注目する傾向が強いことが明らかとなった。



図7. *Outside over There* 16場面目

図8は *The Moon Jumpers* の一場面である。この絵を見せて得られた回答は「月の妖精のように見えた」「幸せそう」「月夜と猫と一緒にいるイメージがある」などであった。また、図8については月の形よりもむしろ髪や服の色と月の色との関係に注目する傾向が見られた。



図8. *The Moon Jumpers* 12場面目

図9は、*Where the Wild Things Are* の一場面である。この絵を提示した時に多く見られた回答は、「角や爪の形が月の形と似ている」「木の葉っぱと月の形が似ている」「目の形や色が月の形と似ている（黄色，三日月の形をしている）」などであった。



図9. *Where the Wild Things Are* 12場面目

3-4 考察

本項では、センダック作品に登場する満月が示す役割と、三日月の向きと主要人物の感情の関係の2点について考察する。

3-4-1 満月と主要人物の感情の関係

図5で示したように、月が登場する全場面中82%に満月が描かれていた。センダック自身が「満月が好き」と述べていることが満月が圧倒的に多かった理由の1つであると考えられるが、ここでは、センダックがなぜ満月を好んで描くのかについてさらに深く考察するため、満月が人の感情に及ぼす影響について述べる。一般的に、満月は感情の高ぶり、高揚した気持ちを表すのに適している。実際に、図7を回答者に示した調査結果によると、登場人物の表情や動作がありありと描かれているにも関わらず、月の形に注目する人が多かった。つまり、人は場面の状況を読み取る際に、月の「形」に注目する傾向が強いということが示唆されている。

そこで以下では、*Where the Wild Things Are* の場面展開に注目し、主要人物の感情の起伏と満月の関係について考える。この作品では、以下のような場面展開に沿って月の形が変化する。

- 1) 三日月：主人公マックスがいたずらのお仕置きとしてご飯抜きを言いつけられる。
- 2) 三日月×3場面：部屋がみるみると森へと変わる。
- 3) 月なし×3場面：船に乗り冒険が始まり、かいじゅうたちと出会う。
- 4) 三日月×2場面：マックスがかいじゅうたちを服従させ（図9）、王さまとなる。
- 5) 満月：恐怖に打ち勝ち、かいじゅうたちと月の下で踊る。
- 6) 月なし×4場面：かいじゅうたちと過ごし、別れを告げる。
- 7) 満月×2場面：船に乗り家に帰る。

物語の冒頭、三日月の場面では、母に叱られ部屋で一人という状況にマックスは心のどこかで寂しさを抱えていたのではないだろうか。そして、やはり三日月が描かれている上記2)の場面では、月の向きに対して顔を背け、怒りを表したり、少し悲しそうな表情をしたりしている。しかし、そんな寂しさや恐怖を抑え、かいじゅうたちを服従させようとする姿は5)の満月の場面でとても勇敢に描かれている。つまり、主人公の不安や恐怖が当初三日月で描かれていたが、王さまとなり恐怖に打ち勝ちかいじゅうたちと踊る場面では満月が描かれている。また、部屋に帰ってきた7)の場面でも、母との和解により安心感を抱き、心が満たされたような状況を満月が表しているのではないだろうか。従って、センダックが友人から「矛盾だらけだ」と指摘を受けたという三日月と満月が混在する技法には、読者を引き付け興奮させる要素、または見せ場を暗示するという役割を担っていると考えられる。

3-4-2 月の向きと主要人物の感情の関係

図6に示したように、センダック作品では、月の向きと主要人物の目線が83%の場面において一致していた。以下では、引き続き *Where the Wild Things Are* の場面展開を例に、月の向きが示す意味について考察する。まず、母親に叱られた直後の場面1)で怒った表情のマックスは月の向きとは反対側に目線を向けているが、自分の空想の世界の広がりとともに、次の場面2)では月と同じ方向を向いている。また、かいじゅうたちを服従させようとする場面4)、(図9)でも月と向きとマックスの目線の向きは同じである。

最後に、月の向き的重要性について同じ場面を用いて考えてみる。この場面4)、(図9)は、マックスが死ぬか生きるかの賭けにでている場面である。かいじゅうたちに食べられてしまうかもしれないという恐怖を抱えながらも精いっぱいの虚勢を張り、自分が特別な力を持っていると信じ込ませるためにかいじゅうたちと向き合っている。この場面で、三日月はマックスの不安を暗示しながらも彼と同じようにページ右側を向いて、マックスの特別な力に加勢しているように見える。月の向きがマックスの特別な力に力添えをしているということを確認するために、図10に、月の向きを左右反転させた構図を示す。この構

図では、月がかいじゅうたちと同じようにマックスに向かい合っているため、月がかいじゅうたちに加勢しているように見える。マックスの両手から出ているはずの目に見えないパワーがちょうど月に吸収されてしまい、かいじゅうたちに行き渡らないのではないかと心配になる。やはりこの場面ではセンダックが描いた通り、月がマックスと同じ方向を向いていなければ、次の場面でマックスが王さまとなり得ないのではないかとさえ思われる。



図10. *Where the Wild Things Are* 場面4) を改変し、月の向きを反転させた構図

3-5 まとめ

センダック作品の背景に描かれる神秘的な月にはどういう意味があるのか。なぜ、月の形が突然変化するのか。このような疑問が発端となり、本研究ではセンダック作品に描かれている月の形や向きと主要人物の心の動きの関係について考察した。主要人物が満ち足りている場面では満月、不安を感じている場面では尖った月を描くことで、月に主要人物の心情を代弁させようとしているのではないだろうか。つまり、センダックは月に主要人物の感情を示す役割を持たせていると筆者は考える。センダック作品が幅広い人気の高さを持ち続けていたのは、このような繊細な場面描写、感情表現にこだわり続けていたからこそであると考えられる。今後はセンダック作品の分析数を増やすとともに他の作者の絵本にも視野を広げ、主人公と月の関係性について更なる追究をしていきたい。

4 おわりに

絵本は「読まなければならないから読む」というものではなく、娯楽としての読書という側面を持ち、子ども達に読むことの楽しさを与え、本格的な読書への橋渡しをする役割を担っている。このことは、読者が大学生であっても変わりがない。さらに、作品を横断的に分析することにより、絵本が知的好奇心を満たす素材ともなり得る。本稿で久米希美がモーリス・センダックによる作品に興味を持ち、限られた期間の中で市立図書館へ何度も出向いて入手したものも含め18冊もの作品を読み込み、作品中に表れる月が示す意味について考察したことは、センダック絵本が芸術作品として価値のあるものであったからこそであると考えられる。「多読ラリー」のように読んだ語数を競うことも大学生が洋書に親しむためのステップとなるが、久米による研究は、「語数を稼ぐために読む」のではなく、「読みたいから読む」という本来の読書の楽しみ方を示す好例であると考えられる。

注

- 1) 中西のりこ・城戸章仁. (2014). 「図書館間における日本十進分類法の適用の不一致について」『神戸学院大学教育開発センタージャーナル』第5号, 1-13.
- 2) 中西のりこ・新田紗也・中川勇生. (2014). 「Caldecott 賞受賞作品に見られる色彩イメージ」『神戸学院大学教育開発センタージャーナル』第5号, 95-106.
- 3) 本研究で分析対象としたセンダック作品は、以下の18作品である。

De Regniers, B. S.; illustrated by Sendak, M. (1997). *What Can You Do With a Shoe?* NY: Margaret K. McElderry.

Grimm, W.; illustrated by Sendak, M. (1988). *Dear Mili*. NY: Square Fish.

Joslin, S.; illustrated by Sendak, M. (1986). *What Do You Say, Dear?* NY: Harper Collins.

Krauss, R.; illustrated by Sendak, M. (1989). *A Hole Is to Dig*. Harper Trophy ed. NY: Harper Collins.

Krauss, R.; illustrated by Sendak, M. (2001). *Charlotte and the White Horse*. NY: Harper Collins.

Krauss, R.; illustrated by Sendak, M. (2001). *I Want to Paint My Bathroom Blue*. NY: Harper Collins.

Kushner, T.; illustrated by Sendak, M. (2003). *Brundibar*. NY: Hyperion.

Marshall, J.; illustrated by Sendak, M. (1999). *Swine Lake*. NY: Harper Collins.

Minarik, E. H.; illustrated by Sendak, M. (1984). *A Kiss for Little Bear*. Perfection Learning.

Sendak, M. (2002). *Kenny's Window*. NY: Harper Collins.

Sendak, M. (1991). *Pierre: A Cautionary Tale in Five Chapters and a Prologue*. NY: Harper Collins.

Sendak, M. (1988). *Where the Wild Things*, 25th anniversary ed. NY: Harper Collins.

Sendak, M. (1995). *In the Night Kitchen*. 25th anniversary ed. NY: Harper Collins.

Sendak, M. (1992). *Some Swell Pup: Or, Are You Sure You Want a Dog?* NY: Random House UK.

Sendak, M. (1981). *Outside over There*. HarperCollins. NY: Harper Collins.

Sendak, M. (1993). *We Are All in the Dumps with Jack and Guy*. NY: Harper Collins.

Udry, J. M.; illustrated by Sendak, M. (1979). *The Moon Jumpers*. London: Bodley Head.

Zolotow, C.; illustrated by Sendak, M. (1990). *Mr Rabbit and the Lovely Present*. NY: Harper Collins.

参考文献

- [1] 小畑佳弘・藤掛久美子・森下美和・安田有紀子. (2013). 「図書館留学：教職協働による学習支援」『神戸学院大学教育開発センタージャーナル』第4号, 51-57.
- [2] 古川昭夫・神田みなみ・黛道子・佐藤まりあ・西澤一・畑中貴美・宮下いづみ. (2010). 『英語多読完全ブックガイド [改訂第3版]』東京. コスモピア. 18.
- [3] Association for Library Service to Children. *Terms and criteria: The Randolph Caldecott Medal*. <http://www.ala.org/alsc/awardsgrants/bookmedia/caldecottmedal/caldecottterms/caldecottterms>
- [4] McDonnell, P. (2011). *Me...Jane. 1st ed*. NY: Little, Brown.
- [5] Sendak, M. (1995). *In the night kitchen. 25th anniversary ed*. NY: Harper Collins.
- [6] Krauss, R.; pictures by Sendak, M. (1981). *A very special house*. NY: Harper Collins.
- [7] Sendak, M. (1991). *Chicken soup with rice: a book of months*. NY: Harper Trophy.
- [8] Isaacs, A.; illustrated by Zelinsky, P. O. (1994). *Swamp Angel*. NY: Dutton Children's Books.
- [9] Kimmel, E.; illustrated by Hyman, T. S. (1989). *Hershel and the Hanukkah Goblins*. NY: Holiday House.
- [10] The Brothers Grimm; retold and illustrated by Hyman, T. S. (1983). *Little Red Riding Hood*. NY: Holiday House.
- [11] Updike, J.; illustrated by Hyman, T. S. (1999). *A Child's Calendar*. NY: Holiday House.
- [12] センダック, モーリス. 脇明子・島多代訳. (1990). 『センダックの絵本論』東京. 岩波書店. 20.
- [13] レインズ, セルマ, G. 渡辺茂男訳. (1982). 『センダックの世界』東京. 岩波書店. 93.
- [14] マルコヴィッツ, ハル. 水谷阿紀子訳. (2009). 『「かいじゅうたち」の世界へ』東京. 文溪堂. 50.